

**製品名: GSK3 $\beta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11824**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	47kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GSK3B
別名	GSK3B; Glycogen synthase kinase-3 beta; GSK-3 beta; Serine/threonine-protein kinase GSK3B
遺伝子 ID	2932.0
SwissProt ID	P49841
免疫原	抗血清はヒト GSK3B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

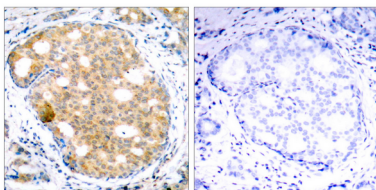
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン-スレオニンキナーゼであり、グリコーゲン合成酵素キナーゼサブファミリー

に属します。エネルギー代謝、神経細胞の発達、そして体型形成に関与しています。この遺伝子の多型はパーキンソン病のリスク修飾に関与していることが示唆されており、マウスを用いた研究では、この遺伝子の過剰発現がアルツハイマー病の病因と関連している可能性が示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションがみつっています。[RefSeq 提供、2009年9月],触媒活性: ATP + [タウタンパク質] = ADP + [タウタンパク質] リン酸,酵素調節: AKT1によるリン酸化により阻害される,機能: Wnt シグナル伝達経路に関与する。グリコーゲン合成酵素、MYB、転写因子 JUN など、いくつかの調節タンパク質のホルモン制御に関与する。JUN の DNA 結合ドメイン近位部位をリン酸化することで、DNA との親和性を低下させます。乳がん細胞において MUC1 をリン酸化することで、MUC1 と CTNNB1/ $\beta$ -カテニンとの相互作用を低下させます。PTM:AKT1 および ILK1 によってリン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。GSK-3 サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット:モノマー (類似性による)。CABYR、MUC1、NIN、PRUNE と相互作用します。組織特異性:精巣、胸腺、前立腺、卵巣で発現し、肺、脳、腎臓で弱く発現します。、

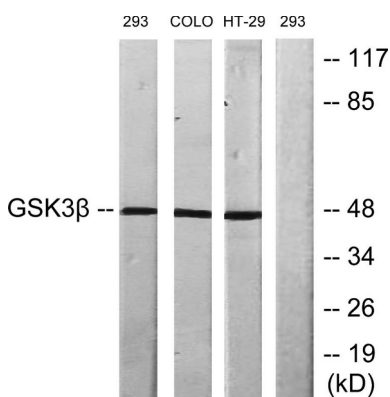
## 研究分野

ErbB\_HER;ケモカイン;細胞周期 G1S;細胞周期 G2M\_DNA;WNT;WNT-T 細胞ヘッジホッグ;軸索誘導;接着斑;T 細胞受容体;B 細胞抗原;神経栄養因子;インスリン受容体;メラニン形成;アルツハイマー病;がんの経路;大腸がん;子宮内膜がん;前立腺がん;基底細胞がん;

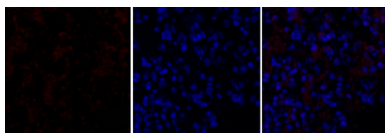
## 画像データ



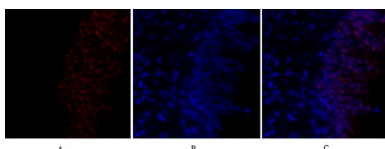
GSK3 $\beta$  抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



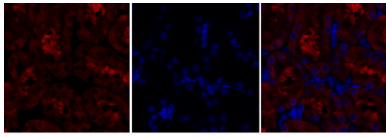
GSK3 $\beta$  抗体を用いた 293、COLO205、HT29 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



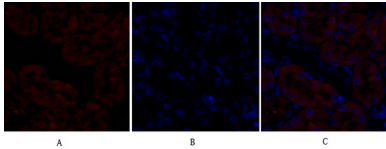
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



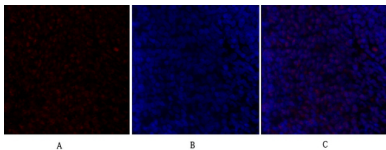
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



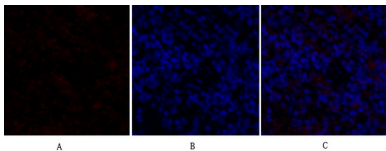
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



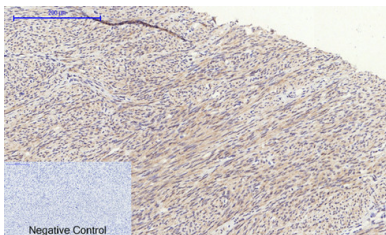
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. GSK3 $\beta$  ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。